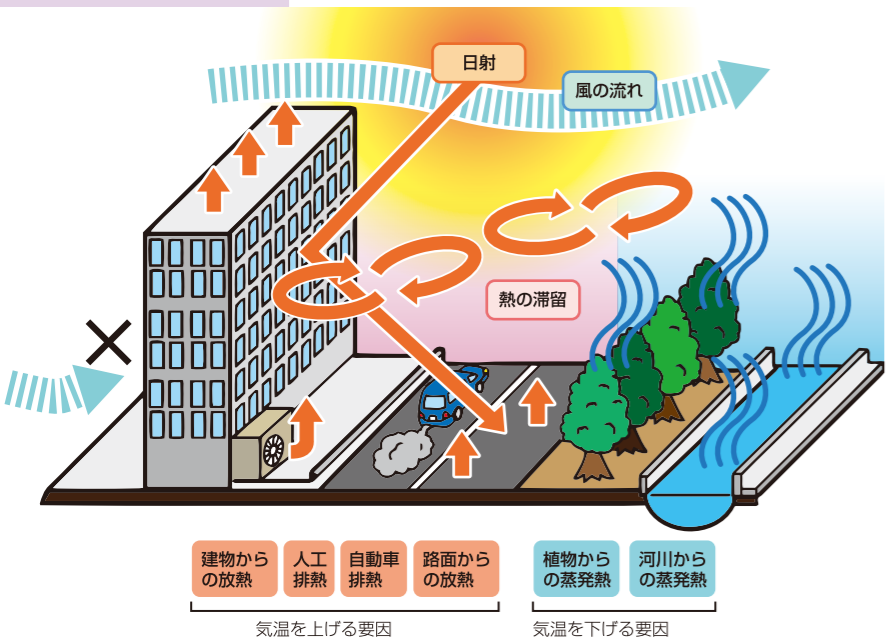




② 大都市とヒートアイランド現象

① ヒートアイランド現象とは？

大都市では、「ヒートアイランド（熱の島）」といわれる現象が occurs。これは都市部の気温がまわりにくらべて高くなる現象で、都市部だけが気温の高い様子が島のようにあらわれることからそう呼ばれます。

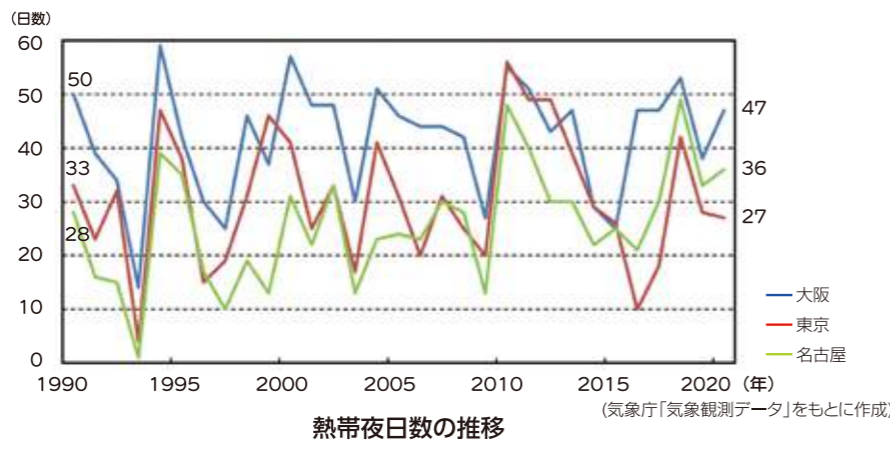


大阪市ではこの100年間に2℃気温が上がりました。全国平均は1℃であり、この1℃の差がヒートアイランド現象によるものとされています。

都市部はアスファルトの道路やコンクリートの建物が多く、これらは熱をためて放熱します。さらに、太陽熱に加え、エアコンの室外機や自動車や工場から大量の熱が排出されます。気温を下げる働きのある土の地面や植物、川や池などがあまり多くないこともあり、気温が高くなってしまいます。

ヒートアイランド現象の影響

下のグラフは、1年間の熱帯夜（1日の最低気温が25℃を下回らない日）の日数を表しています。大阪はここ数年、熱帯夜の日数が東京と名古屋よりも多くなっています。



ヒートアイランド現象により、こうした熱帯夜や真夏日（1日の最高気温が30℃以上の日）が増えるとともに、熱中症患者の増加やエアコンの消費電力の増加、せまいはん囲での集中豪雨の発生などの問題が起こっています。

② ヒートアイランド対策

大阪市では、さまざまなヒートアイランド対策を行っています。例えば、施設の省エネ対策、自動車の渋滞解消などの交通対策、保水力の高い道路の整備、熱の上がりにくい塗料の使用や公園整備、自然エネルギーの利用など、幅広い取り組みがあります。

大阪打ち水大作戦

大阪市では、毎年7月から9月にかけて、市内のあちこちで「大阪打ち水大作戦」を行っています。打ち水とは、お風呂の残り水や雨水などを使って道や庭に水をまき、まわりの気温を下げるという、昔から日本にある習慣です。暑い真夏のまちなかを少しでも冷やすために、市民や会社のみならず、人もいっしょに打ち水をしています。



大阪打ち水大作戦 2020

学校に緑を増やす取り組み

大阪市の学校では、「緑のカーテン」や「校庭の芝生化」を行っています。「緑のカーテン」とは、校舎の壁を使ってヘチマやツルレイシ（ゴーヤ）、ヒョウタンなどの植物を育てることで、校舎が緑でおおわれると、夏の暑い日差しを和らげるとともに、葉から水分が蒸発する時にまわりの熱をうばうことで校舎の中や周りがすずしくなります。

2020年は、大阪市立小・中学校242校が「緑のカーテン」を行いました。



西区 九条東小学校

屋上緑化

屋上緑化とは、ビルなどの建物の屋上に植物を植えて育てることで、これにより建物が太陽光によって熱をもつことや放熱することを防ぎます。また、空気の浄化作用や、植物が増えることで昆虫や鳥が集まったり、そこで働く人びとのいこいの場となったりする利点もあります。

大阪市役所の屋上のほか、なんばパークスや大阪シティエアターミナルビルなど、実施するビルも増えてきています。

最近では、屋根が重くならないように、軽い土や、簡単な工夫で「緑のカーペット」を作ることも提案されています。



大阪市役所の屋上緑化

調べ学習の手助けページ

- 大阪市におけるヒートアイランド対策について
ホームページ <https://www.city.osaka.lg.jp/kankyo/page/0000006301.html>

